

前半 頭頸部から胸部まで

後半 脈拍血圧の測定から腹部まで

個別行動目標(学習・評価項目を参照)

担当診療科・集合場所(時間割参照)・出席表参照

持ってくるもの

学習の手引き、白衣、名札、聴診器、ハンマー、ペンライト、筆記用ボード、筆記具

服装など

持っていれば、ジャージまたは短パンツを持ってきてはきかえてください。

前日、入浴しておいてください。

教材

外来診察室(ベッド、血圧計、バスタオル)、舌圧子。

実習の進め方

1. 教員による実習の説明。
2. 教員による1回目の模範診察。
3. グループ作り。原則として3人1組か2人1組をつくり、それぞれの役割(患者役・医師役・観察者)の順番を決めます。※原則として女子学生は患者役になることを避けてください。
4. ロールプレイ資料(1)の「基本的技法」を参考にして全身の診察を練習します。観察者は途中で誤りがあれば指摘します。診察技法についての疑問点はそれぞれメモしておき、2回目の教員の模範診察の前に質問してください。
5. 教員による2回目の模範診察。
6. 疑問点を解消し、誤った点を修正して再度ロールプレイ。
7. 時間があればカルテ用紙(学習の手引き)に身体所見を英語で記入する練習。

ロールプレイ中の役割とコツ

- ① 患者役(50歳くらいの非医療者の方を想定)

- a. 医師役の指示を受ける前に適切な体位を取るなど、不自然に協力的な態度は取らないこと。
- b. 取るべき体位、姿勢に関する医師役からの指示、その他の声かけや配慮について、非医療者としてわかりやすかったり、不安が和らいだり、心地よかったりした場合、あるいは逆に、指示の意味が分からなかったり、診察中に痛い、冷たいなどの感覚を感じた場合は、積極的に医師役にフィードバックすること。

② 医師役

- a. 面接技法の最後のステップ(「それでは今から〇〇の診察をします。よろしいでしょうか」)から始め、資料の「学習・評価項目」の項目と手順を省略せずすべて実行すること。
- b. 50歳の方を想定して練習してください。各手順の前に患者さんに声かけし「何を／何が起こる／どうしてほしいか」を伝えること。声かけ事例集を参考にしてください。
- c. 診察中に自分が患者役に与えていそうな感覚については、その有無を積極的に尋ねてみよう。(例)「痛くありませんか?」、「寒くないですか?」など。
- d. 診察中の表情の変化、体のささいな動きなど、非言語的な表現にも注目し、適切な声かけをしよう。(例)「少し痛かったですね、申し訳ありません」など。
- e. 診察法について疑問点があれば、あとで質問すること。

③ 観察者

診察の各項目について次の点を観察し医師役に助言する。

- a. 手順は正しいか?
- b. 実行していない技法はないか?
- c. 疑問に感じた技法
- d. 声かけできたところと、すればもっと良くなると思われたところ
- e. 患者役に不快感が起こっていきそうに見えたところ

ロールプレイ後の自己学習

身体診察の練習はロールプレイを1回しただけでは全く足りません。この実習は自分で練習することを介助するに機会にすぎませんので、これを参考にして、小グループで集まり、資料を見なくてもスラスラとできるようになるまで、お互いに繰り返し練習してください。